

【現代社会】 大学入学共通テスト試行調査(プレテスト)所見 (平成 29 年 11 月実施)

教材研究センター地歴公民研究室

◎ 試験概要 ◎

配点： 100点

試験時間： 60分

◎ 出題における特徴的な点 ◎

- 解答番号の総数が23と、近年のセンター試験「現代社会」における36と比べて大幅に減少している。
- ただし問題冊子のページ数としては、センター試験並みであることから、個々の設問における負担の増加傾向が伺える。
- 設問には、従来のように、2行程の4つの選択肢の中から一つを選ぶ知識問題もあるが、大部分は解釈・穴埋め・組合せなどが必要な複合問題であり、一つ一つを解答するのに時間がかかる。知識不要の設問もあるが、知っていた方が圧倒的に有利である。それでも必要な知識の総量は減少か。
- 各大問に、センター形式の「リード文」はなし。ただし読解が必要な対話文や資料は、導入部に限らず多くあり。解答するにあたって、与えられているほとんどの文章を読む必要がある。この点、センター試験においては「リード文」を必ずしもすべて読まずとも解答可能な問題も含まれていた。
- 大問1～4には、「現代社会」の授業の開始時、夏休み、9月に書き取ったノート、終わりの時期という設定があり、ストーリー仕立てで構成されている。大問5は、大学一年時の設定。いずれも解答に直接の関係はないが、興味を持たせるための工夫か。
- 内容的には、一つ一つの設問で導入となる文章が増えたことで、従来の試験では扱われにくかった、より現実的な情勢に即した、政治・経済・社会・思想などに関する多様な題材を紹介できるようになっている(例えば金融市場、外国為替市場なども)。
- ある物事の原因や解釈の説明として、正しいものをすべて選ぶ、あるいは、誤っているものを一つだけ選ぶ、といった設問形式の採用により、物事について考える際の、多角的・多面的な視点を伝えられるように工夫されている。

◎ 大問ごとの分析 ◎

第1問(社会思想・推論)

ベンサム功利主義の説明を「考え方 A」、ロールズの正義論の説明を「考え方 B」として、まず紹介。
問1と問2では、それぞれ4選択肢の中から、AとBに内容が合致する考え方を選ぶ。
問3では、4選択肢の中から、AとBそれぞれに最も関連する制度や政策を選ぶ。
問4は、AとBの話題には全く関係なく、「推論」を定義した上で、妥当な「推論」の例を4選択肢の中から一つ選ぶ。
⇒ 解答に当たって、いずれも知識不要。ただし功利主義や正義論を知っている者の方が有利。

第2問(青年・心理・文化・宗教)

導入として、青年期・葛藤・日本の宗教と文化・世界の宗教、に関係する事項が箇条書きされている。
問1では「アイデンティティ達成」など青年期の課題の4つの定義と、4つの具体例の組合せを一つ選ぶ。
問2では、3つの例が、3つの防衛機種のどれに該当するか、組合せを一つ選ぶ。
問3では、3つの説明文が、「アニミズム」などの用語のどれに該当するか、組合せを一つ選ぶ。
問4では、世界の一神教について寓意的に説明した資料文の読解として適切なものを、4つの選択肢から一つ選ぶ。
⇒ 組合せ問題と資料問題のみ。問1と問4は知識不要。ただし文章量が多く、知識があった方がスムーズに解ける。

第3問(市場の仕組みと経済問題)

市場経済について扱った生徒のノートが導入。
問1では、江戸時代の経済情勢・物価変動に関する会話の空欄に当てはまらない文章を、4つの内から一つ選ぶ。
問2では、エンゲル係数を扱った2つのグラフをめぐる会話の空欄3箇所に該当する説明の組合せを、一つ選ぶ。
問3では、需給曲線のグラフの解釈について説明した生徒の5つの発言から、正しいものを「すべて」選ぶ。
問4では、為替レートを扱ったグラフなどをめぐる会話中の、2つの空欄に入る語句の組合せを、一つ選ぶ。
問5では、地球温暖化をめぐる会話の空欄に入る4つの文章から、誤っているものを一つ選ぶ。
⇒ いずれもほぼ、経済などをめぐる知識を踏まえた上で、文脈から適切な解答を導く複合問題。
従来あまり扱われなかった、近世の経済、金融市場、外国為替市場なども題材。ほとんどの設問に複数の正しい文章が含まれる。

第4問(政治制度・思想・現代史)

自分たちで「身近な課題について」の「問題」を作る、という導入。
問1は、衆参両院の選挙の際、それぞれ4つの行為から有効となるのはどれか、「すべて」選ぶという、8択問題。
問2は、政治思想史に関係した4つの記述から誤りを一つ選ぶ、オーソックスな従来型の設問。
問3では、戦後世界の現代史を扱った4つの記述を、年代順に並べる。
問4では、6つの資料が後ろに提示されており、民法の成年年齢下げに反対する、という主張をするための、「前提となる事実」を内3つの資料から一つ、「前提から主張を導ける理由」となる資料を残り3つから一つ選ぶ。
⇒ 問1は内容も「すべて選べ」の形式も難しく、正答率 4.6%(速報値)。問4は論理問題で、世論調査など6つの資料があり煩雑。

第5問(三権・憲法・司法制度)

大学の法学講義での、三権分立と司法制度についてまとめたノートが導入。

問1は、三権分立の具体的制度について、正しい記述を4つから一つ選ぶ。

問2は、会社などの法人に適用される人権を、4つから一つ選ぶ。

問3は、国や地方の行政機関に関する記述として正しいものを、4つから一つ選ぶ。

問4は、最高裁が違憲であると判断したことのある例として適当でないものを、4つから一つ選ぶ。

問5は、「裁判官のみが判断をする制度」か「裁判員制度」のいずれかに賛成している5人の学生の議論を読み、

その内3つの発言は誰によるものか、知識ではなく読解力だけを駆使して、組合せを選ぶ。

⇒ 問1～4は、問4の選択肢文はやや長いですが、いずれもオーソドックスな、従来型の問題。問5のみ読解問題。